

## しいたけ夏期散水講習会(原木乾しいたけ生産参入者講習)

遠野市宮守町で、「裸地伏せホダ場における夏場の散水講習会」が、遠野市しいたけ産業推進協議会と、岩手県(遠野農林センター、林業振興課)の共同により開催されました。会場は菊池英雄氏(大上戸草椎茸生産組合長)の伏せ込み場で、自宅付近の休耕田を利用し、裸地伏せが行われています。伏せ込み場の概要は以下の通りです；

- ・伏せ込みは6月中～下旬、立て鑑伏せ
- ・ホダ木の下に端材を敷設(過湿防止)
- ・周囲をブルーシートで被覆(乾燥防止)
- ・上面をヨシズで被覆(昇温防止)
- ・隣接水路から取水、スプリンクラーで散水

シイタケの原基の形成には水分が必要なこと、ホダ木の温度が30℃を超えると菌糸の伸びが悪くなったり、死滅することから、菊池さんは、気温が25℃を超えた日に、植菌2年目のホダ木に対して数時間の散水を行い、水分の補給とホダ木の冷却を行っています。このホダ木(新ホダ)は同年の秋にホダ場へ移され、約半月後から発生が始まります。新ホダからの収穫量は安定しており、夏場の管理がその一因と思われます。

参加者からは、

- ・寒冷地でのホダ化に効果的。
  - ・設備投資が少なくて始めやすい。
  - ・休耕田なら水の便も良いのでは。
- と言った感想が得られました。

その後、林内ホダ場と人工ホダ場を見学し、小原上席専門研究員(林業技術センター)が、簡易な散水方法について説明しました。

なお、今回紹介した裸地伏せは、菌糸の活着と初期伸長が達成されたホダ木の使用が前提ですが、菊池さんは加温ハウス内で植菌、仮伏せを行うことで、これを可能としています。今後は、研修会等により管内生産者への普及を進める予定です。



伏せ込み場(裸地伏せ)